石の宝殿の魅力再発見と伝承事業 2018

石の宝殿研究会

魅力再発見！

# 石の宝殿と竜山周辺史跡

## ～浮石の謎～

約１億年前の火山活動でできた竜山石。それに1,300年以上前の人が手を加えて造られた巨大な謎の石造物・石の宝殿と、1,700年間続く竜山石の採石遺跡群。兵庫県高砂市の宝、人を惹きつけてやまない石の文化の魅力に迫ります。

# 冊子発行に寄せて

高砂市長　登　幸人

『魅力再発見！石の宝殿と竜山周辺史跡～浮石の謎～』と題し、冊子が発行されますことを心からお喜び申し上げます。皆様が長年にわたってひたむきに研究を重ねられ、その努力がこのように冊子として実を結んだ達成感や喜びはひと際のものと存じます。また、平素より、冨田会長をはじめ、石の宝殿研究会の皆様には、本市の歴史文化行政に大きく寄与いただいておりますことに深く敬意を表しますとともに厚く感謝を申し上げます。

２０１４年１０月、石の宝殿と竜山石採石遺跡が本市で初めて国史跡に指定されました。これにより、地域の魅力増大とさらなる地域活性化が図られることとなりました。そのような中、石の宝殿研究会の皆様は、写真展やクイズラリー、講演会によるＰＲ活動など、多彩な事業展開を企画されておられます。これらの活動は、住民が主体となった歴史文化や環境を守り育てる意識や大切にする風土を形成することにつながる大変意義深いものであり、今後の活動にも大きな関心と期待が寄せられています。

本市におきましても、国史跡を適切に保護し、次世代へ継承するため、２０１７年３月に「史跡保存活用計画」を策定し、この計画をもとに、史跡の文化財的価値を高めるとともに、適切な保存管理と効果的な整備活用に努めております。地域の歴史文化遺産は、地域の歴史や文化を物語る貴重な資源であります。先人先輩が培ってきた誇りある歴史文化遺産を将来に向けて確実にその価値を保存し、市民共有の財産として歴史文化を活かしたまちづくりを推進してまいりますので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、石の宝殿研究会のますますのご発展と、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、冊子発行に寄せるお祝いのことばとさせていただきます。

# ごあいさつ

私たち石の宝殿研究会は、石の宝殿と竜山周辺史跡の魅力を再発見し、広めていくことを目的とする有志の集まりです。

地元の方たちの中には、「石の宝殿を何回も訪れているが、その歴史的な背景については余り知らない」とおっしゃる方や、竜山１号墳、天磐船、観涛処等、周辺の史跡についても、意外とご存じない方が多くおれらます。また、せっかく遠方からお越しになったのに、浮石をぐるっと一回りして、「大きな石だった」という感想のみで、その歴史や由来の説明にあまり触れることもなく帰ってしまわれる方も多いようです。

「石の宝殿及び竜山石採石遺跡」が、平成26（2014）年に、国史跡に指定されました。私たちは、これを地元の宝物と考えて、その魅力を広めることにより、地域の活性化に役立てていきたいものと思っております。

活動の手始めとして、石の宝殿と竜山周辺史跡の魅力をまとめた冊子を編集することといたしました。ここに、『魅力再発見！石の宝殿と竜山周辺史跡～浮石の謎～』と題して発行できますことは、会員一同の喜びでございます。気軽に手に取っていただき、これらの史跡についての一通りの情報を得ていただくきっかけになれば幸いです。

本冊子の発行にあたりましては、高砂市をはじめとする行政関係、各種団体や企業・医院・商店あるいは個人の方々から、多くのご指導やご支援、ご協力をいただきました。ここに厚くお礼を申し上げます。

研究会では、石の宝殿と竜山周辺史跡について、さらに新たな魅力を発見して広めていきたいと思っております。また、クイズラリーや現地案内会、写真展、フォーラム等を開催して、これらの歴史文化遺産についての魅力をお伝えしていきたいものと考えております。

今後とも、何とぞご支援とご協力を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。

石の宝殿研究会　会員一同

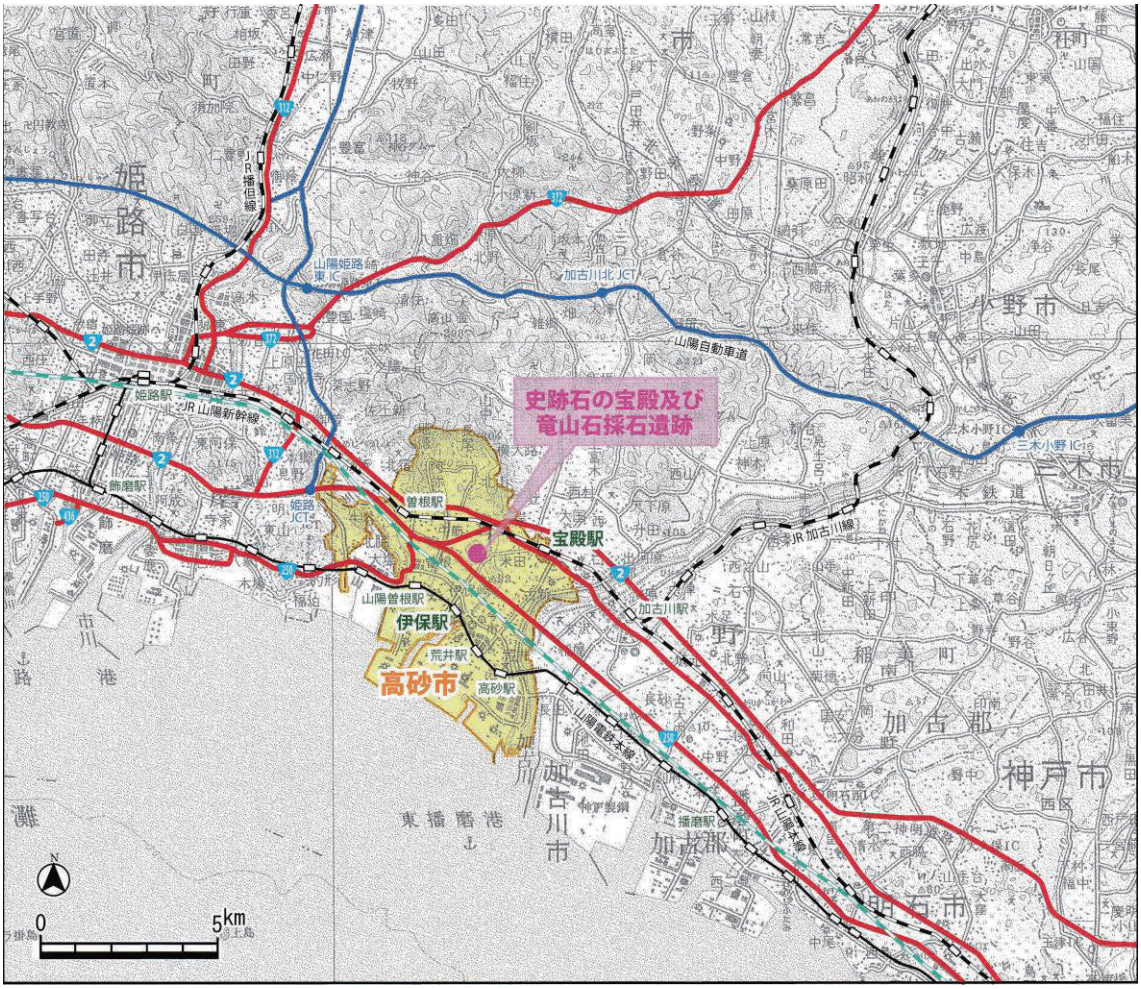
# 目　　次


| | |
|---|---|
| 冊子発行に寄せて | |
| ごあいさつ | |
| 1　石(いし)の宝殿(ほうでん)って何？ | 1 |
| 2　「浮石(うきいし)」と呼ばれるわけは？ | 4 |
| 3　竜山石(たつやまいし)って？ | 6 |
| 4　いつ、誰が、何のために造ったの？ | 9 |
| 5　起こすつもりだったの？ | １３ |
| 6　どこかへ運ぶつもりだったの？ | １４ |
| 7　似たような大石があるって？ | １５ |
| 8　古墳時代(こふんじだい)ってどんな時代だったの？ | １７ |
| 関連する歴史年表 | ２０ |
| 9　あなたはどう思う？　「謎(なぞ)の浮石(うきいし)」 | ２１ |
| 10　まわりにはどんな史跡(しせき)があるの？ | ２３ |
| 言い伝えと創作童話(そうさくどうわ)　「山の神とオコゼ」・「大きな石のおにぎり」 | ２８ |
| あとがき | ３０ |
| 参考文献(さんこうぶんけん) | ３１ |
| 協賛者一覧表(きょうさんしゃいちらんひょう) | ３２ |

# 1　石の宝殿って何？

## （1）謎の大石・石の宝殿

兵庫県高砂市。ＪＲ宝殿駅の西南西約 1.5km、山陽電鉄伊保駅の北約 1.5km のところに竜山山地と呼ばれる小高い山があります。その内の一つ、宝殿山（標高 65m）の中腹に、石の宝殿と呼ばれる謎の大石があり、生石神社のご神体として祀られています。

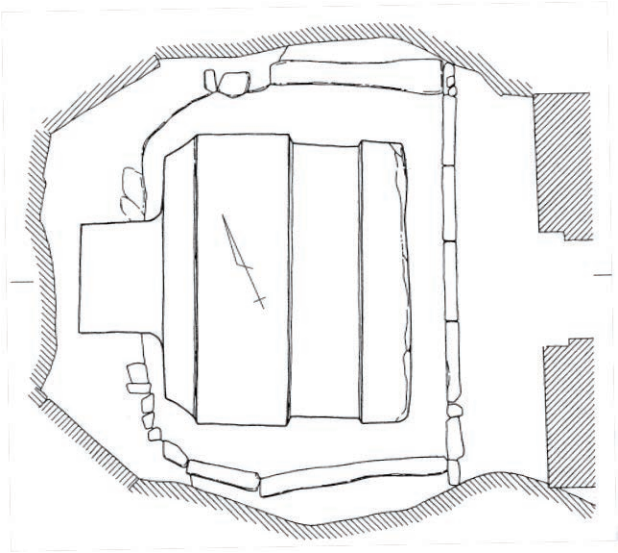


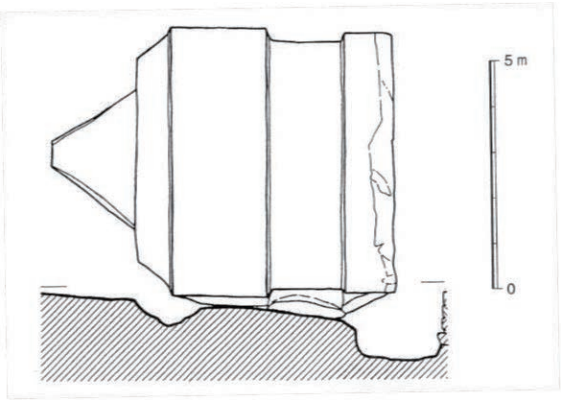

（高砂市教育委員会『史跡　石の宝殿及び竜山石採石遺跡保存活用計画』より抜粋）

この石の宝殿は、竜山石と呼ばれる岩石の山肌をくりぬいて造られた、巨大な石造物です。その大きさは、正面から見ると、幅が約 6.4m、高さが約 5.6m、奥行きが約 5.6m の直方体に近く、奥側には、四角錐形の突起があり、これを含めた奥行きは約 7.4m となります。その重さは約 465 トンと推定されています。

また、両側面には、幅約 1.6m、深さが 10～25cm の溝が掘り込まれています。上面は、堆積した石と樹木に覆われていて、確認が難しいのですが、おそらく、この溝は上面にも続いているものと推定されます。

この特異な巨石・石の宝殿が造られたのは、今から 1,300 年以上前（6～7 世紀ごろ）と推定されますが、その正確な時期や、誰が、何のためにこれを作ったのかについては、明確な証拠が無く、いろんな説があって、謎に包まれています。






石の宝殿平面図　　石の宝殿側面図

（『高砂市史 第 4 巻(史料編 地理･考古･古代･中世)』より:原図は西谷真治氏）

石の宝殿（背面突起部）　　石の宝殿（正面入口側）　　石の宝殿（斜めから正面と側面）

（高砂市ＨＰ及び高砂市教育委員会『史跡　石の宝殿及び竜山石採石遺跡保存活用計画』より）

## （2）日本三奇の一つ

石の宝殿は、いつ、誰が、何のために造ったのか、よくわからない、謎を秘めた不思議な遺跡です。このような物は他にもありますが、特に、宮城県塩竈市の御釜神社（鹽竈神社の末社）にある「四口の神竈」と、宮崎県西諸県郡高原町の霧島東神社にある「天之逆鉾」、それに石の宝殿を加えて、日本三奇と数えられています。

（地図は、一般社団法人高砂市観光交流ビューロー公式 HP　不思議な「日本三奇」の世界　より）

四口の神竈（提供　宮城県塩竈市　鹽竈神社）

天之逆鉾（提供　宮崎県高原町観光協会）

## （3）高砂市民の宝物、国の史跡に指定

約 1 億年前の火山活動でできた凝灰岩からなる竜山石。古墳時代から現在まで、約 1,700 年にもわたって連綿と続く竜山石の採石遺跡と、謎に満ちた巨大な石造物・石の宝殿。「石の宝殿及び竜山石採石遺跡」は、その歴史文化的な価値を認められて、平成 26（2014）年 10 月に、国史跡に指定されました。

私たちは、これらの史跡に触れるとき、日本の国とふるさとの歴史を思うとともに、これからを生きていく勇気をも得ることができるように思います。

石の宝殿とその周辺史跡を、高砂市民ひいては国の宝物として、保存活用に努めるとともに、その魅力を広めていきたいものです。

石の宝殿って、
すごいんだねー！

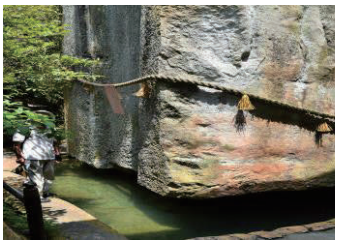
高砂市のマスコット**ぼっくりん**です。
これから皆さんをご案内します。

## 2 「浮石」と呼ばれるわけは？

石の宝殿は、別名を「浮石」とも呼ばれています。そのわけは何でしょうか？

### （1）水に浮いているように見えるから

石の宝殿のまわりには水がたたえられているため、大石が水に浮いているように見えます。そのために「浮石」と呼ばれるようになったと思われます。

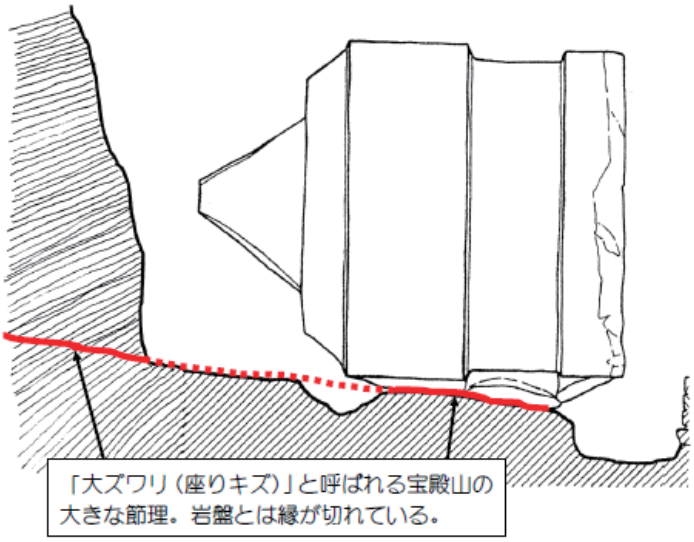


（水に浮いているように見える）

### （2）宝殿山の「座りキズ」

ところが、「浮石」と呼ばれる理由は、実はもう一つあるのです。石の宝殿は、宝殿山と呼ばれる山の中腹にあります。山頂から続く岩盤を、山頂側とその両側の三方から掘り込んで造られたものです。基礎の部分は、四方からえぐり込まれているものの、底は岩盤とつながっているように見えます。

しかし、よく見ると、石の宝殿そのものが岩盤と接する部分には、全体に水平方向の亀裂が入っていて、岩盤とは縁が切れているものと考えられます。この亀裂は、もともと山の斜面にあった岩盤の、水平方向に走る「節理」と呼ばれる切れ目で、古くから石工さんの間では、「大ズワリ」または「座りキズ」と呼ばれています。このように岩盤と縁が切れている状態の石を、石工さんは「この石は浮いている」と言います。石の宝殿を「浮石」と呼ぶ理由は、ここにもあったのです。




（西谷真治氏の実測図に後壁と大ズワリを追記）

この「座りキズ」の状況は、石の宝殿の正面や側面からは、水面下に隠れてよく見えませんが、背面（突起のある側）からは、水面上に出ているために、腰をかがめてみれば、よく観察することができます。

また、生石神社の絵馬殿から、石の宝殿に向かって右手側に末社があり、そのさらに奥に回り込むと、テラス状になった採石遺跡があります。その壁面と床面の境目にもこの延長とみられる「座りキズ」を観察することができます。

石の宝殿は、この岩盤を貫く水平方向の節理(座りキズ)に沿って加工されており、もともと、これを計算に入れたうえで、岩盤から切り離すことを意図して造られたものと思われます。ここに、当時の石工さんの高度な知恵がうかがわれます。

テラス状の採石遺跡(座りキズの延長部分)

ぽっくりんの豆知識

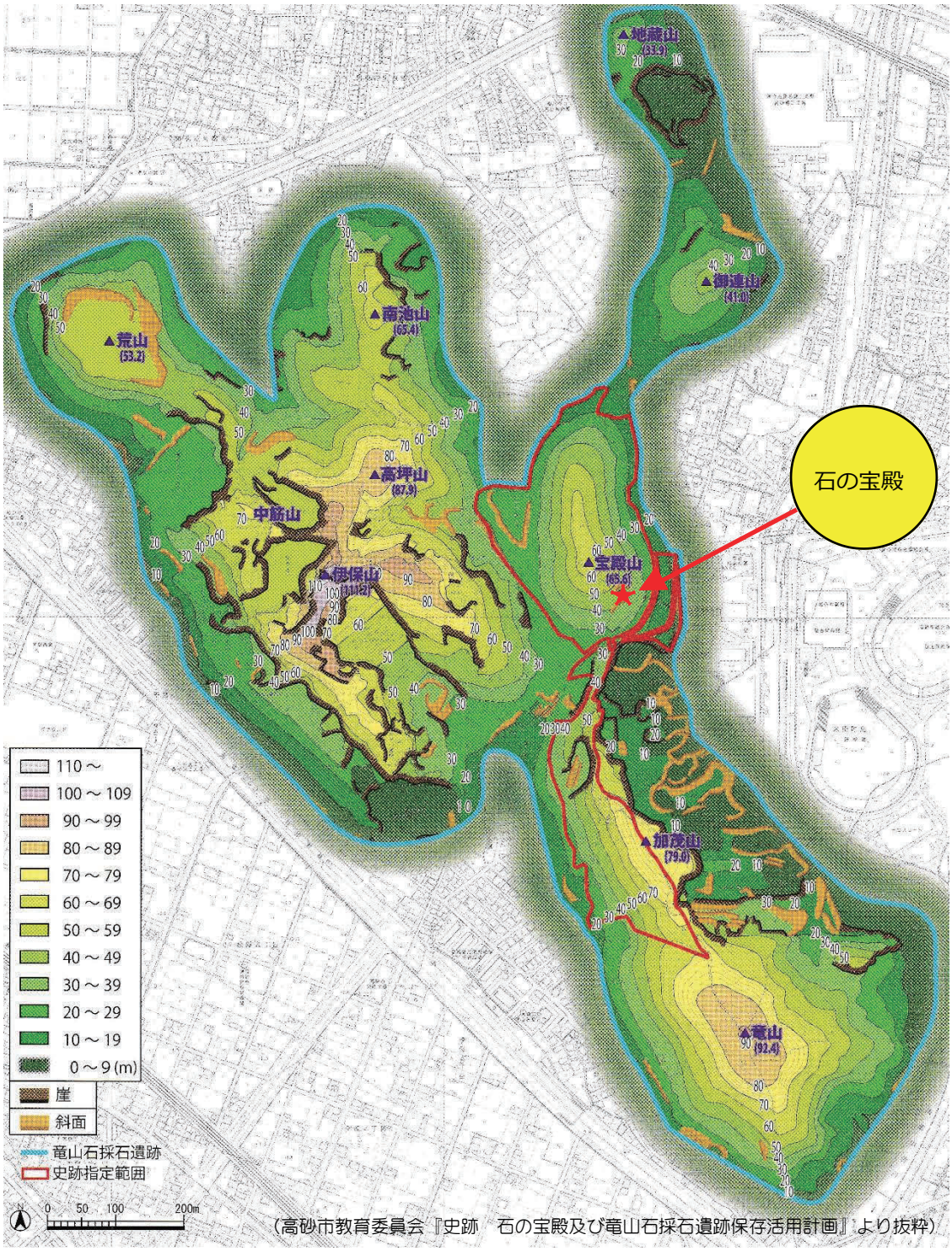
**「石の宝殿」の呼び名はいつから・・・？**

この大石が、いつから「石の宝殿」と呼ばれだしたのかは、はっきりしないんだけど、文書に「石宝殿」と初めて書かれたのは、寛文７（1667）年の『松平大和守日記』だよ。松平大和守は、徳川家康のひ孫にあたる大名で、姫路藩主になったこともあるよ。たいそう筆マメな人で、大名としての出来事ばかりか、趣味や日常の事まで、日記に書きとめていたんだね。

| 3 | 竜山石って？ |
|---|---|

## （１）約１億年前の火山活動でできた石

石の宝殿周辺の山々には、それぞれの名前がありますが、まとめて竜山連山とか、竜山山地と呼ばれます。竜山山地は、多くの部分で岩石が露出しており、これは、竜山石と呼ばれています。




（高砂市教育委員会『史跡　石の宝殿及び竜山石採石遺跡保存活用計画』より抜粋）

約１億年もの昔、人類が誕生する以前で、ティラノサウルス等の恐竜が活動していた、白亜紀（約１億 4,500 万年前から約 6,600 万年前まで）と呼ばれる時代があります。竜山石は、この白亜紀後半の火山活動によってできた凝灰岩の一種で、ハイアロクラスタイトとも呼ばれます。

### （２）優良な石材

竜山石の比重は約 2.3 です。その強度を、石材として有名な大谷石（竜山石とは別の種類の凝灰岩）や北木石（花崗岩の一種で、花崗岩は御影石とも呼ばれます）と比較したデータによると、圧縮強度では大谷石よりもはるかに大きく、北木石と同程度です。いっぽう、破壊ひずみでは大谷石と同程度で、北木石よりも大きくなっています。

つまり、竜山石は、均質で粘り気のある丈夫な岩石で、石材として優秀な性質をもっているのです。

### （３）青・黄・赤の３色

竜山石の色相は、青・黄・赤の３色あります。

露出部分で多く見られるのは、青白色～緑灰色の青竜山石です。黄竜山石は、風化作用によって、青竜山石が変化したものと考えられます。赤竜山石は、熱水の上昇によって色相が変化したものと考えられます。

青竜山石

黄竜山石

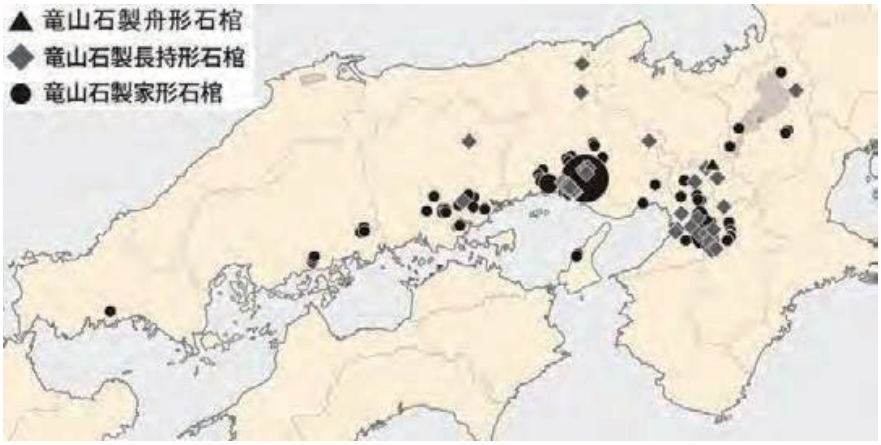
赤竜山石

（写真は、株式会社松下石材店のホームページより抜粋

http://www.tatsuyamaishi.com/tatsuyama-ishi/）

## （4）竜山石の歴史

今から約 1,700 年前には、既に竜山石の利用が始まっていたことがわかっています。古墳時代前期（4 世紀頃）のことで、奈良県メスリ山古墳の石室天井石等がその例です。播磨地方では、加古川市の南大塚古墳、聖陵山古墳の石室材に使用されています。竜山石の利用は、約 1,700 年もの歴史を持っているのです。



（『史跡　石の宝殿及び竜山石採石遺跡保存活用計画』より抜粋）

古墳時代の中期（5 世紀頃）から後期にかけて、竜山石は、長持形石棺や家形石棺に盛んに用いられます。これらの石棺は、大王（後には天皇と呼ばれるようになります）をはじめ、畿内（都の周辺の地域）や地方の有力者の古墳に採用されました。

古墳時代が終わるとともに、竜山石の採石はいったん減少しますが、鎌倉時代には再び活発になり、室町時代にかけて、層塔、五輪塔、宝篋印塔、板碑、石仏等が盛んに製作されます。江戸時代には、墓石、地蔵、鳥居、狛犬、石臼等や、石垣、石段等の建材にも広く用いられ、後には、姫路藩の専売品にもなりました。姫路城の石垣にも使用されています。また、皇居吹上御苑や、国会議事堂、旧造幣局鋳造所、住友銀行本店ビル、帝国ホテルなどの近代建築にも多く使用されています。

高砂市・曽根神社の石橋（竜山石製）

# 4　いつ、誰が、何のために造ったの？

それでは、この巨大な石造物・石の宝殿が、いつ、誰によって、何のために造られたのか、その謎を探っていきましょう。

## （1）播磨国風土記

石の宝殿が初めて記録に出てくるのは、8 世紀初め（奈良時代）に書かれた『播磨国風土記』です。

**播磨国風土記**　印南郡大国里 条

大国の里土は中の中なり。大国と号くる所以は、百姓の家、多く此に居り。故、大国といふ。

此の里に山あり。名を伊保山といふ。帯中日子命を神に坐せて、息長帯日女命、石作連大来を率て、讃伎の国の羽若の石を求ぎたまひき。彼より渡り賜ひて未だ御廬を定めざりし時、大来見顕しき。故、美保山といふ。山の西に原あり。名を池の原といふ。原の中に池あり。故、池の原といふ。

**原の南に作石あり。形、屋の如し。長さ二丈、広さ一丈五尺、高さもかくの如し。名号を大石といふ。伝へていへらく。聖徳の王の御世、弓削の大連の造れる石なり。**

『日本古典文学大系』第二巻

（『高砂市史』第四巻　史料編より転載・但し読み仮名を補足し、一部の文字を強調した）

**（解説）**

（前略）「大国里に山があり、名を伊保山というのは、神功皇后が夫である仲哀天皇の遺骸を奉じ、連れていた石棺作りの大来と、讃岐の羽若の石を求めた。しかしそこより来るとまだ御廬＝安置所も定まらぬ間に直ちに御廬となる石（石棺となる石）をみつけた。そのためその山をみほ（いほ）山という」とのことである。

**これに続いて『播磨国風土記』には「作石」の事が記されているが、これは形が家のようだとあり、しかもその大きさまでも示されていることから、所在地も形も大きさも、現在石宝殿として知られる、生石神社のご神体を指すものであることは、いうまでもないことである。**

（『高砂市史』第一巻　通史編より抜粋。但し、一部の文字を強調した）

ここに、「作石」または「大石」として石の宝殿のことが記載されているということは、今から約 1,300 年前に**『播磨国風土記』が書かれたとき（715 年頃と推定）、石の宝殿が既に存在していた**という証明になります。

これを、いつ、誰が造ったかについて、『播磨国風土記』は、**「聖徳の王（聖徳太子）の御代（時代）、弓削の大連（物部守屋）が造った」**という言い伝えを述べています。しかしながら、聖徳太子が摂政（天皇を補佐する役目）として政治を行った時期には、物部守屋は既に死亡していたということもあって、この伝承には矛盾が含まれています。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 聖徳太子 | 生存時期 | 574～622 | 摂政の時期 | 593～622 |
| 物部守屋 | 生存時期 | ？ ～587 | 大連の時期 | 572～587 |

ぽっくりんの豆知識

**播磨国風土記とは？**

奈良時代の和銅6（713）年、官命（元明天皇の詔）によって、諸国に、地名とその由来、土地の豊かさ、産物、伝承などを調査して報告させたんだよ。これによって編纂された地誌）が「風土記」と呼ばれるんだけど、今も残っているのは、播磨国（兵庫県）、常陸国（茨城県）、出雲国（島根県）、肥前国（佐賀県）、豊後国（大分県）の５か国分だけなんだって。中でも、『播磨国風土記』の編纂が最も早く、715 年頃と推定されているよ。

### （２）神々と言い伝え

「石の宝殿は、弓削の大連(物部守屋)が造った」と伝える『播磨国風土記』は、江戸時代の終わり頃まで、一般の人の目に触れることはありませんでした。そのこともあって、このような巨大な石造物は、人知の及ばないもので、神の創造物であるとする言い伝えや記録が、平安時代から江戸時代にかけて流布しています。

**① 峯相記**

『峯相記』というのは、南北朝時代の貞和4（1348）年に峯相山鶏足寺を訪れた旅の僧が同寺の老僧と問答する形式で書かれた播磨の地誌で、高砂市に関しては、米田の地名の由来や、生石・高御位（高御倉）の二神の縁起などが記されています。この中で、石の宝殿のこと

**峯相記**

太子町　斑鳩寺所蔵

（前略）

次ニ生石子・高御倉ハ陰陽二神トシテ夫婦ト顕レ給ヘリ、天人降テ石ニテ社ヲ造ムト擬スル処ニ、夜明ケル間、押シヲコスニ及ハス、返上畢、今ニ有、社ノ大ナル事、更ニ凡夫ノ所為ニ非ス、

（後略）

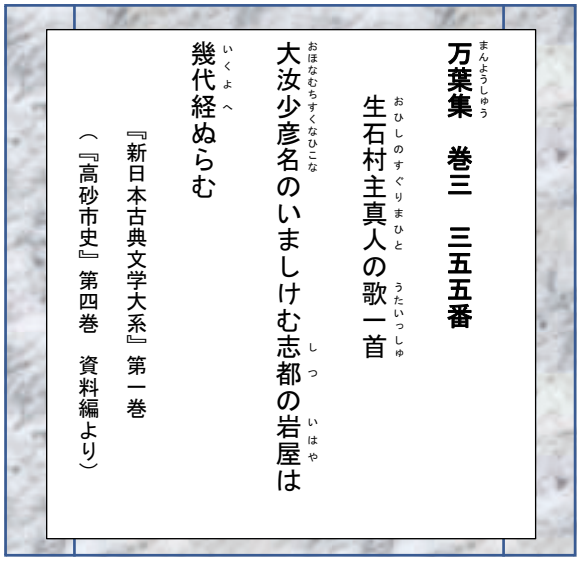
（『高砂市史』第四巻　史料編より転載

但し、振り仮名を追加）

について、「生石・高御倉の二神が天から降り、石で社を造ろうとしたが、夜が明けて起こすことができず、そのままになっている」と記されています。

### ② 万葉集の「志都の岩屋」

万葉集（7～8 世紀）に、右のような歌があります。「大汝（大国主の別名）と少彦名の二神がいらっしゃる志都の岩屋は、どのくらい昔からあるのだろうか」との意味で、この「志都の岩屋」が高砂市の石の宝殿に該当するという説と、島根県邑智郡邑南町の「志都の岩屋神社」や、同県大田市静間町の「静乃窟」にあたるという説があります。




## （3）いろんな学説

### ① 山片蟠桃の『夢の代』

印南郡神爪村（現、高砂市米田町神爪）出身で、江戸時代後半の町人学者・山片蟠桃（1748～1821 年）は、天文・地理・歴史・制度等を記した書『夢の代』の中で、石の宝殿について、「思ふに上古石棺をばつくり功を竟へずして廃したるものか知るべからず」と記し、石棺の未完成品ではないかと述べています。

### ② 考古学者らの諸説

石の宝殿の成り立ちについて、その後、考古学者らによる研究がなされ、さまざまな仮説が唱えられています。

神功皇后が、夫である仲哀天皇の死後に造ろうとした「御廬（安置所）」であるとの説、物部守屋が、蘇我氏の崇仏政策（仏像を拝みまつろうとする政策）に対抗して、国神たる大汝命・少彦名命を祀ろうとした神殿であるが、守屋が蘇我氏によって滅ぼされたため未完に終わったとの説、斉明天皇の御陵を造ろうとして未完に終わったものとの説、蘇我氏が、自らの墳墓として造ろうとした横口式石槨（横穴式になった、棺を納めるための石造の部屋）だが、蘇我氏の滅亡とともに放棄されたとの説、あるいは、当時の石作集団の信仰の対象として製作された一種のモニュメント（記念碑）とする説等、様々です。

特に、奈良県飛鳥市の益田の岩船や牽牛子塚古墳と似ていることから、横口式石槨であるとする説が有力ですが、確実な証拠はありません。

変わったところでは、松本清張の小説『火の路』にあるように、拝火教(ゾロアスター教)の拝火壇であるという説もあります。

石の宝殿…この巨大な物を、いつ、誰が、何のために造ったのか？

これまでのいろんな説を一覧表にすると、下のようになります。（『石の宝殿・竜山石採石遺跡―竜山採石遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ―』2014 年 3 月、高砂市教育委員会より抜粋）。

| 形　状 | 突起の用途 | 目　的 | | 益田岩船との関係 | 完成度 | 引起こし | 移　動 | 製作関係者 | | 年　代 | 未完成とした場合の理由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家　形 | 屋根の一部？ | 神　殿 | | 無 | 未完成 | する | しない | 神 | オオシコ・タカミクラ | 神　代 | 夜が明けたため |
| | | | | | | | | | オオナムチ・スクナヒコナ | | 阿賀神の反乱 |
| | | | シンボル | | | | | ㊟人 | 物部守屋 | 6世紀後半 | 蘇我氏により滅亡 |
| | | 墓 | 石棺か石室 | | | | 不　明 | | | | |
| | | | 御　廬 | | | | しない | | 神功皇后 | 4世紀？ | 反乱の早期決着 |
| | | | 石　棺 | | | | | | 麑坂王と忍熊王 | | 敗　戦 |
| | | | 石棺式石室 | 有 | | | する | | 不　明 | 8世紀以前 | 不　明 |
| | | | 横口式石槨 | | | | しない | | 在地首長 | 8世紀以前 | |
| | | | | | | | する | | 蘇我蝦夷・入鹿 | 7世紀中頃 | 大化の改新 |
| | | | | | | | | | 斉明天皇 | 7世紀中～後半 | 白村江の敗戦 |
| 容器形 | ― | | | | | | | | | | 亀裂の発生 |
| ― | 縄掛突起？ | | 火葬墓 | | 完成 | しない | しない | | 不　明 | 8世紀以前 | ― |
| 祭　壇 | 角？ | 儀　式 | | | | | | | 斉明天皇 | 7世紀中～後半 | |
| ノミ形 | ノミ先の形状 | シンボル | | 無 | | | | | 石作関係 | 8世紀以前 | |

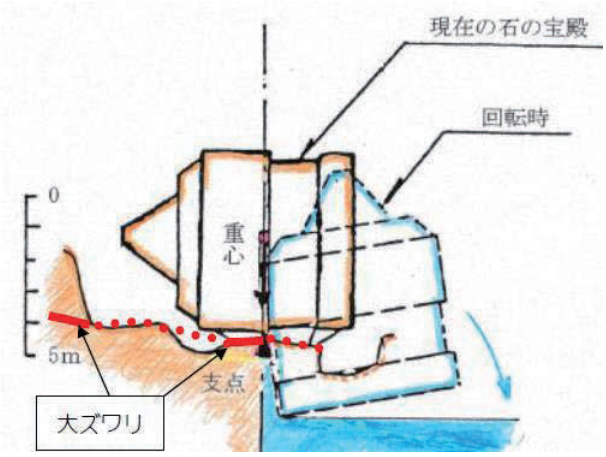
㊟　麑坂王と忍熊王

これらの仮説のうち、いったいどれが正しいのか。

この石造物は、完成品か未完成品か。現地にこのまま置かれる予定だったのか、それとも引き起こされる予定だったのか。また、現地から他の場所に運び出すことを予定していたのかどうか。同時に湧いてくるこれらの疑問についても、今のところ、どの説が正しいかは分かりません。石の宝殿は、多くの謎を秘めた、不思議な石なのです。

# 5　起こすつもりだったの？

石の宝殿は、『播磨国風土記』にも、「形、屋の如し」と書かれているように、家を横倒しにしたような格好に見えます。だとすると、これを造った人たちは、最終的には引き起こすつもりだったのでしょうか。また、引き起こした後は、どうするつもりだったのでしょうか。この場所に据え付けておくつもりだったのでしょうか、それとも、どこかほかの場所に運び出すつもりだったのでしょうか。これらの謎について考えてみましょう。




まず、引き起こすつもりだったのかどうか？

なにしろ、相手は約 465 トンもあるような大石です。現代のように、いろんな重機が発達している世の中ならまだしも、1,300 年以上も前の時代に、これを引き起こすことが、果たして可能だったのでしょうか。

引き起こすことは、当時の技術でも可能だったろうと思われます。左の図を見てください。これは、昭和 53（1978）年に発表された神戸四郎次氏の「引き起こし予定推定図」（『石の宝殿調査報告書』高砂市教育委員会、2010 年）を一部改変したものです。石の宝殿が岩盤と接する部分を、正面側から掘り進めていけば、ある地点に達したところで、図の「支点」を中心にして、てこの原理によって、石の宝殿が起き上がることが想像されます。ただし、これは、石の宝殿の基底部分に「大ズワリ」と呼ばれる水平方向の節理があって、岩盤と縁が切れていることを前提に考えた話で、これを製作した石工たちの知恵と技術水準の高さを思い知らせるものです。

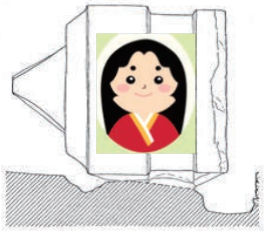
逆に言えば、この部分に水平方向の節理があることを考慮して製作したということは、石の宝殿は、最初から、引き起こすことが前提であったことを想像させます。

**郷土史家Ａさんのひとりごと**

子供の頃（昭和20年代後半）、近所の長老より聞いた、「この“浮石”が起き上がっていたら、ここが都だったんだ」との話に興味を持ち、それ以来60年間、石の宝殿の研究をしてきました。

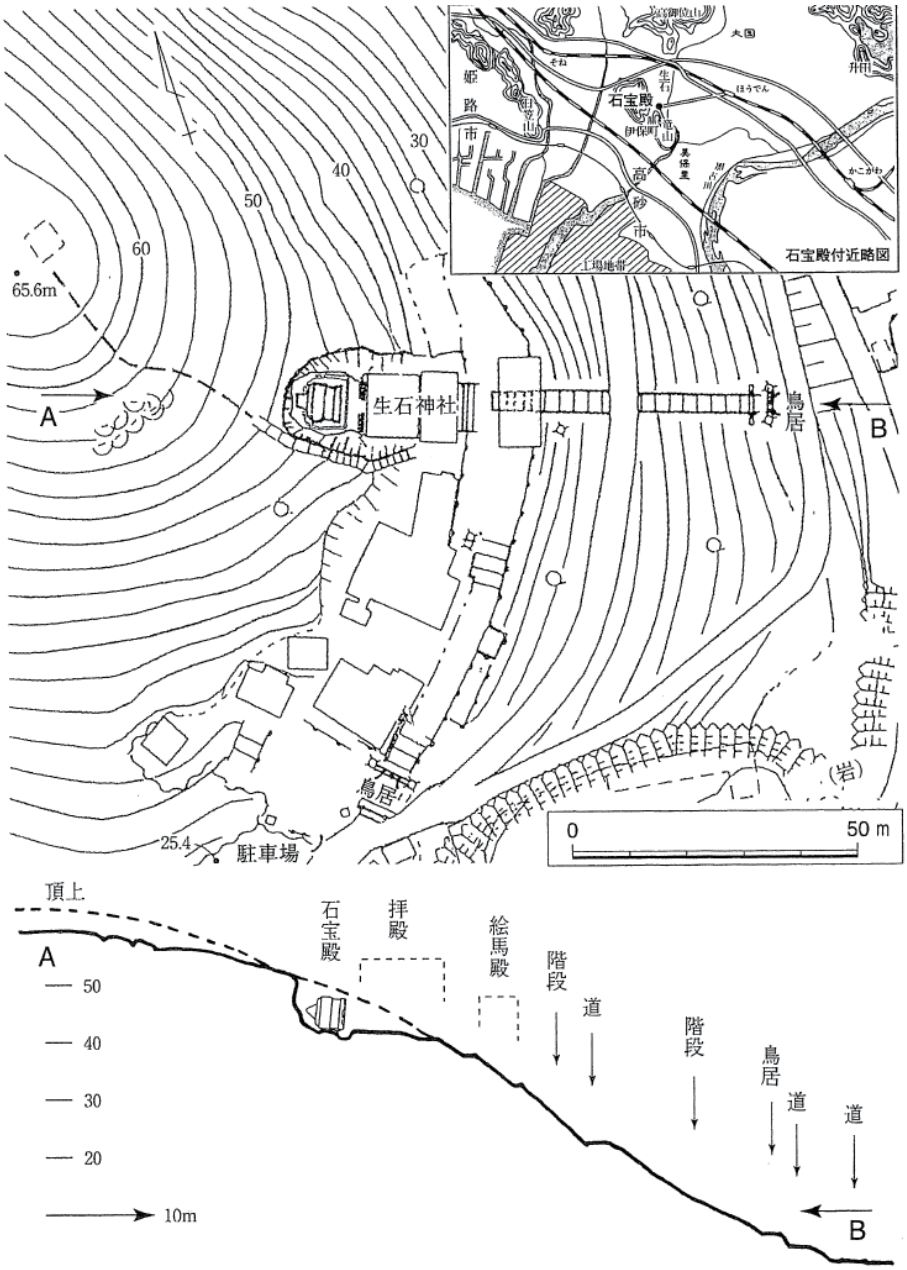
**「浮石姫」のひとりごと**

昔、出雲の国から、大国主命と少彦名命が天磐船に乗って、この地に来られ、私を作ってくれたけど、途中で邪魔が入って、完成の前に夜が明けてしまい、私は横のままで、今もそのままなのよ。



| 6 | どこかへ運ぶつもりだったの？ |
|---|---|

それでは、この大石を他の場所へ運び出すことについてはどうでしょうか。石の宝殿とほぼ同時代（古墳時代）に運搬（うんぱん）されたと思われる石舞台古墳（いしぶたいこふん）の天井石の重さが 77 トン、もっと後の時代の大阪城大手見付石（おおてみつけいし）が 150 トン。これに比べて、石の宝殿の重量は、推定 465 トン。このような桁違（けたちが）いの大石を運搬することは果たして可能だったでしょうか。




（『高砂市史 第４巻(史料編 地理・考古・古代・中世)』より）

左図は、石の宝殿周辺の地形図（平面図）と、その断面略図（Ａ－Ｂ断面）です。

石の宝殿は、宝殿山（65ｍ）の中腹にあるため、山の傾斜を利用して、下の川（法華山谷川）まで引きずり下ろすことは、何とか可能だったかもしれません。

しかし、これを更にどこか遠くに運び出すとなると、川を下るにしても何にしても、はたして、当時の技術で可能だったのでしょうか。

# 7　似たような大石があるって？

これまでみてきたように、類まれなる謎の大石、石の宝殿。これと似たような大きな石造物（人間が手を加えてこしらえたもの）は、他にあるのでしょうか。それは、奈良県の飛鳥地方にありました。

## （1）益田の岩船・・・飛鳥地方の謎の巨石

奈良県橿原市白橿町の住宅地に近い貝吹山（標高 210m）の竹藪の中に、花崗岩でつくられた巨大な益田の岩船が横たわっています。

大きさは、東西に約 11m、南北に約 8m、高さが約 4.7m。重さは約 800 トンにもなろうかといわれています。

誰が、何のために造ったのか、文献が残っておらず、亀石や酒船石などとともに、飛鳥地方の謎の石造物とされています。

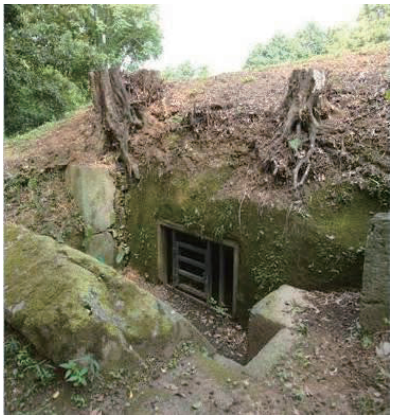
（ア）弘法大師による巨大な石碑の台石、（イ）星占いの台座、（ウ）横口式石槨（棺を納める墳墓）の造りかけで、石に亀裂があるため放棄したもの、等の説がありますが、（ウ）が有力のようです。

上部から側面にかけて、幅約 1.6m の溝が掘られており、上面には、この溝にそって、一辺が 1.6m、深さ約 1.2m の穴が 2 ヶ所掘ってあります。

## （2）牽牛子塚古墳・・・斉明天皇の墓ではないかといわれる古墳

奈良県明日香村越には、貝吹山に続く真弓丘陵のふもとに、牽牛子塚古墳（別名・あさがお塚古墳）があります。平成 21（2009）年の調査の結果、この古墳は、天皇陵に多くみられるような八角墳であり、斉明天皇（女帝）とその娘（間人皇女）の墳墓である可能性が指摘されています。

この古墳の石室は、近くの二上山に産する、幅 5～6m の巨大な凝灰岩をくりぬいた横口式石槨で、中央に間仕切り部があり、二つの部屋を構成しています。



牽牛子塚古墳（入り口部）　　牽牛子塚古墳（石槨の内部）

（写真は『明日香村観光ポータルサイト　旅する明日香ネット』

https://asukamura.com/?page_id=2418 より引用）

### （３）石の宝殿との比較

ここで、石の宝殿、益田の岩船、牽牛子塚古墳を比較すると、次のようになります。

| | 石の宝殿 | 益田の岩船 | 牽牛子塚古墳 |
|---|---|---|---|
| 形式 | 巨石の一体加工 | 同左 | 同左 |
| 石の種類 | 竜山石 | 花崗岩 | 二上山の凝灰岩 |
| 大きさ（幅）・約ｍ | 6.4 | 11 | 5～6 |
| 外形 | 家形 | 家形 | 不明 |
| 溝の幅・ｍ | 1.6 | 1.6 | 不明 |
| 穴の大きさ（縦×横×深さ）・ｍ | 不明 | 1.6×1.5×1.2[L] | 1.2×1.3×2.1[L] |
| 完成度 | 未完成品？ | 未完成品？ | 完成品 |
| 用途 | 不明 | 不明 | 横口式石槨墓（よこぐちしきせっかくぼ） |

このうち、牽牛子塚古墳のみが、完成品として、実際の古墳に使用されていますが、他の二つは、未完成品のように見えます。

また、石の宝殿の側面には、益田の岩船と同じように、しかも 1.6m という同じ幅で、溝が掘られています（2 ページの図及び写真参照）。しかし、上面の穴の有無（うむ）については、平成 20（2008）年のレーダ探査により調査されましたが、その存在を確認できませんでした。

益田の岩船も、石の宝殿も、ともに、家屋を横倒しにしたような形をしており、似通っているところから、石の宝殿も横口式石槨（よこぐちしきせっかく）を作ろうとしたものではないかとの説があります。

# 8　古墳時代ってどんな時代だったの？

3 世紀後半から 7 世紀頃までの日本では、大王や大和あるいは地方の有力者（豪族）のために、大小さまざまな古墳が築かれました。この時代を古墳時代と呼びます。そして、石の宝殿は、古墳時代の後半、6～7 世紀の頃に造られたものと推定されます。

それでは日本の歴史を簡単にふりかえってみて、古墳時代とはどんな時代だったのかを考えてみましょう。

## （1）旧石器時代、縄文時代、弥生時代

### ①　旧石器時代

2～3 万年前の地球は、氷期と呼ばれて、雪や氷河におおわれ、海水面は今よりもずっと低く、日本列島の一部は大陸と地続きだったのです。人は、ナウマンゾウやオオツノシカ等、大型動物を追って日本列島に渡り、住みつきます。大型動物の狩りや魚を釣り、植物の採集をして、移動する生活で、洞窟などに住みつきました。石を打ち欠いて作った打製石器を使用していたので、旧石器時代と呼びます。

注目すべきことに、竜山の山頂付近からもこの頃のものとみられる石器が採集されており、私たちの祖先が、既にこの頃には、この地に暮らしていたことを物語っています。

### ②　縄文時代

その後、地球の温暖化が進み、大陸をおおっていた雪や氷河がとけて海水面が上昇し、今から約１万３千年前には、現在の日本列島の形がほぼ出来上がります。温暖化によって、植物や動物の種類が増え、食料が豊かになります。約１万３千年前に、人々は、粘土を加工し、焼いて作った土器で、食料を煮炊きして調理するようになります。この頃、多くの土器には、縄目の文様を入れたので、これを縄文土器と呼び、この時代を縄文時代と呼びます。人々は、竪穴住居に住み、ムラをつくって、共同生活を営むようになります。三内丸山遺跡（青森県）がその一例です。播磨地方では、日笠山貝塚（高砂市）や、辻井遺跡（姫路市）から、縄文人の人骨が出土しています。

### ③　弥生時代

約 2,500 年前には、大陸から稲作が伝わって、西日本から東日本に広がり、人々の暮らしは稲作中心になります。この時代に造られる土器は、縄文土器よりも高温で焼かれるようになり、薄くて赤っぽく、比較的シンプルなデザインで、実用的なものが多くなります。この様式

の土器が最初に発掘されたのは、東京都文京区弥生町（東京大学構内）で、その地名をとって、弥生土器と呼ばれます。また、この土器が作られた時代を弥生時代と呼びます。

兵庫県加古郡播磨町にある国史跡の大中遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての代表的な遺跡で、当時の竪穴住居が再現されています。

また、大陸からやってきた渡来人との交流によって、銅鏡、銅鐸、銅剣等の金属器が伝わります。

時には、稲作のための土地や水を奪い合って、ムラどうしの争いが起き、強いムラが弱いムラを従えて、クニを作るようになります。

クニの中には、国王が中国に使いを送って貢ぎ物をし、見返りに授かりものをもらう事がありました。それは、『魏志』倭人伝（正式な名称は、『三国志』魏書東夷伝倭人条）という中国の歴史書に出てきます。これは、当時の倭国すなわち日本の事が書かれた大変に貴重な資料です。「もともとは 100 余りのクニだったが、今、使者や通訳が行き来するのは 30 か国ほどだ」などと書かれています。

## （2）邪馬台国と卑弥呼

### ① 女王の治めるクニ

『魏志』倭人伝によると、3 世紀の日本には、邪馬台国と呼ばれる、女王の治めるクニがありました。邪馬台国は、30 余りのクニを従えていたということです。卑弥呼は立派な宮殿の奥で暮らし、めったに人に会わなかったそうです。占いやまじないによる神秘的な力でクニを治めました。

卑弥呼は、239 年、魏に使者を送って貢ぎ物をし、見返りとして、「親魏倭王」の金印とともに、100 枚の銅鏡を授かります。この金印の行方は、いまだに不明です。

### ② 邪馬台国の謎

この邪馬台国が日本のどこにあったのか、今でも明らかになっていません。『魏志』倭人伝に書かれた邪馬台国への道のりに照らして、北九州とする説と、畿内（奈良県大和地方とその近辺）とする説が有力です。

### ③ 卑弥呼の死と箸墓古墳

卑弥呼は死後、直径 150m もある大きな塚に葬られたと、『魏志』倭人伝には書かれています。その墓がどこにあるのか、明らかではありませんが、奈良県桜井市にある箸墓古墳がそれで

はないかという説があります。これは、3 世紀後半に造られた、我が国で最も古い前方後円墳のひとつで、全長が 278ｍもあります。

（３）古墳時代

① 大小さまざまの古墳

古墳とは、土を盛って丘のようにした大きな墓のことで、先に述べた卑弥呼の古墳をはじめとして、3 世紀後半から 7 世紀にかけて、日本全国で、大小さまざまな古墳が多数造られました。日本全国には、約 20 万基の古墳があるといわれます。古墳には、大王や大和あるいは地方の有力者（豪族）、またはその家族が葬られますが、遠くからでも見えるくらいの大きな古墳を造ることによって、これらの権力者が自らの力を示そうとしたのだと考えられます。

古墳には、埴輪（素焼きの土器で家、人物、動物、容器などをかたどったもの）を飾ったり、副葬品（銅鏡、勾玉、冠、兜、太刀、器等）を死者と一緒に埋葬したりしています。

4 世紀に造られたと推定される竜山 5 号墳（全長 30m の前方後円墳）からは、銅鏡、太刀、鍬先、槍先、鉄斧、ガラス玉等が出土しています。

② ヤマト王権と蘇我氏・物部氏

奈良県の大和地方や、大阪府の河内地方には、大きな古墳が集中し、巨大な権力をもつ支配者がいたことをうかがわせます。この地方を根拠にして、大王の勢力は、周辺のクニを従えてゆき、5 世紀ごろには、九州の北部から、東北地方の南部のあたりまで支配していたと考えられます。この政治体制をヤマト王権または大和朝廷と呼びます。

大和には、大伴氏、物部氏、蘇我氏などの豪族が、大連や大臣などと呼ばれる朝廷の要職について、大王を支えながら大きな権力を持っていました。特に、6 世紀の中ごろには、物部氏と蘇我氏が実権を握ります。しかし、538 年に百済から伝わった仏像を積極的に祀ろうとする蘇我氏と、それに反対する物部氏の間の対立もあって、ついには武力衝突となり、587 年には、物部氏が敗北します。

③ 大化の改新と薄葬令・・・古墳時代の終わり

その後しばらくは、摂政となった聖徳太子が、蘇我氏とともに、天皇を助けながら政治を行いますが、622 年の太子の死後、蘇我氏の横暴に批判が強まり、645 年、ついに蘇我氏が、中大兄皇子（後の天智天皇）や中臣鎌足らに討たれて、大化の改新が行われます。

そして、大化の改新の翌年（646 年）、古墳を造ることを制限する薄葬令が出されて、それ以降の古墳は急速に減少し、古墳時代が終わりを告げます。

| 関連する歴史年表 | | | |
|---|---|---|---|
| 年代 | 西暦 | 日本の歴史 | 播磨地方の歴史 |
| 旧石器 | 2～3万年前 | 日本列島に人が住み始める | 竜山の山頂付近で、この頃の石器を採集 |
| | | 石器を使い、大型動物の狩猟をして移動する生活 | |
| 縄文 | 約1万3千年前 | 日本列島が今の形になる<br>土器を作り始める（縄文土器） | |
| | | 土器を使い、狩猟・採集生活<br>貝塚や竪穴住居、ムラの形成 | 縄文人の人骨出土（日笠山貝塚、姫路市辻井遺跡） |
| 弥生 | 約2,500年前 | 稲作の始まり | |
| | | 米作り中心の生活<br>土器（弥生土器）、金属器（青銅器、鉄器）の使用。ムラからクニへ、クニどうしの争い | |
| | 57 | 奴国（なのくに）の王が中国（後漢（ごかん））に使いを送り、金印（漢倭奴国王印（かんのわのなのこくおういん））を授かる | |
| | 239 | 邪馬台国（やまたいこく）の卑弥呼（ひみこ）が中国（魏（ぎ））に使いを送り、金印や銅鏡を授かる | |
| 古墳 | 3世紀後半 | 古墳がさかんに造られる | |
| | 4世紀 | ヤマト王権の国土統一が進む | 竜山5号墳（4世紀の築造と推定。銅鏡、鉄剣、鏃、槍等出土） |
| | 5世紀 | 中国や朝鮮から渡来人（とらいじん）が増え、機織（はたお）り、鉄器づくり、漢字などを伝える | |
| | 538 | 仏教が伝わる | |
| | 572～587 | 物部守屋（もののべのもりや）が大連（おおむらじ）となる（弓削大連（ゆげのおおむらじ）） | 播磨国風土記によると、この頃、石の宝殿が造られた |
| | 587 | 物部氏（もののべし）と蘇我氏（そがし）が対立し、物部氏が破れる | 589　聖徳太子の命により鶴林寺の前身（刀田山四天王寺聖霊院）が建立されたとの伝承（鶴林寺縁起） |
| 飛鳥 | 593～622 | 聖徳太子（しょうとくたいし）が摂政（せっしょう）となる | |
| | 607 | 中国に遣隋使（けんずいし）（小野妹子（おのの いもこ））を遣（つか）わす | 7世紀　竜山1号墳と石棺が造られた？ |
| | 630 | 中国に第1回の遣唐使（けんとうし）を遣わす | |
| | 645 | 大化（たいか）の改新（かいしん） | |
| | 646 | 古墳造りが制限される（薄葬令（はくそうれい）） | |
| 奈良 | 710 | 都を平城京（へいじょうきょう）に移す | |
| | 712 | 『古事記（こじき）』編纂（へんさん）（太安万侶（おおのやすまろ）ら） | |
| | 713 | 諸国に「風土記」編纂の官命 | 715頃『播磨国風土記』編纂 |
| | 720 | 『日本書紀』編纂 | |

| 9 | あなたはどう思う？<br>「謎の浮石」 |
|---|---|

石の宝殿を造ったのは誰なのかな？

播磨国風土記（はりまのくにふどき）には、弓削大連（ゆげのおおむらじ）（物部守屋（もののべのもりや））が造った石だと書かれとるぞ。

でも、物部氏（もののべし）を滅ぼした蘇我氏（そがし）が造ったという説や、神功皇后（じんぐうこうごう）や斉明天皇（さいめいてんのう）（どちらも女性）との説もあれば、神様（オオナムチ、スクナヒコナ）が一晩で造ったとか、いろんな説があるのよね。

そうなんだよ。どの説にも、はっきりした証拠がなくて、決め手がないんだよ。だからこそ、いろんな事が推理できて、楽しいのかもしれないね。

石の宝殿を造った目的にしても、神様の住む神殿や、お墓（石棺（せっかん）や石室または石槨（せっかく））というのやら、当時の石工集団（いしく）のシンボル（ノミの形）、あるいは、拝火教（はいかきょう）（ゾロアスター教）の祭壇（さいだん）との説まであるよ。

へエー、いろんな説があるんだね。それじゃあ、石の宝殿研究会の皆さんは、どう考えてるのかな？

（Ａさん）私は、やはり、播磨国風土記に書いてあるように、物部守屋が造ったものだと思いますよ。

（Ｂさん）そやけど、守屋の時代には、竜山石製の石棺が大和地方に運ばれてぇへんそうやで。そやから、「守屋は竜山石に対して影響力を持っていなかった。石の宝殿は、その後の蘇我氏が造ろうとしたが、大化の改新とともに蘇我氏が亡んだために、未完成で放棄されたんだ」という学者もあるでぇ。

（Ｃさん）あんな大昔に、あんなゴッツイもんを造ろうとしたら、いったいどれ位の人と年数がかかるんやろね？この辺の石工たちをみぃんな動員しても、何年も、ひょっとしたら、十年以上かかるんやないかなぁ？

（Ｄさん）それやったら、石の宝殿を造っている間は、竜山石の石棺なんて、造ってる余裕はないやんなぁ！

（Ｅさん）そやねんで。そやから、僕もやっぱり、これは守屋が造ったと思うねん。「守屋の時代には、竜山石製の石棺が大和地方に運ばれてへん」いうのは、逆に石の宝殿を守屋が造ったいう間接的な証明になってると思うんや。

（Ｆさん）さて、皆さん、こんな議論が交わされていますが、
真実はどうなのでしょうか？
あなたも、この謎ときの輪に加わってみませんか！！

# 10　まわりにはどんな史跡があるの？

このように、魅力に満ちた石の宝殿のまわりには、他にも魅力的な歴史遺産がいっぱいありますので、ぜひとも足を延ばしてみてください。

## （1）天磐船

竜山のふもと、法華山谷川沿いにある高砂市教育センターの中庭に、屋根付きの台座に据えられて、大きな、平べったい石が横たわっています。

大きさは、全長約 2.7m、幅が約 1.4m、高さが約 0.7m あり、大きな 6 個の突起（縄かけ突起）が付いています。これは、竜山石製の家形石棺の蓋なのです。6 世紀の後半に製造されたと推定されており、もともとは、石の宝殿のある宝殿山（65m）の西側の伊保山（112m）頂上付近にあったものです。石棺の身（本体）の行方は不明です。

江戸時代の中期、宝暦12（1762）年に、播磨国印南郡平津村（今の加古川市米田町平津）の平野庸脩という人が完成したとされる播磨国の地誌『播磨鑑』の「石宝殿略縁起」の項には、次のように書かれています。

「…石宝殿の由来を尋るに、神代の昔、大己貴命天の岩船に乗り此山に止り高御位大明神と号し一神は少彦名命生石子大明神と号す。二神御意を合せ五十余丈の岩を切ぬき石屑は一里北たかみくら山の峰に投をくり玉ひ、一夜の間に二丈六尺の石の宝殿をつくり、二神の尊鎮座ます…」（弊研究会注記：現在の生石神社本殿の看板には高御位大明神と生石子大明神が入れ替わって書かれています。）

この時に神が乗ってきた「天の岩船」が、この石棺の蓋だというのです。

## （2）竜山１号墳と石棺

生石神社の駐車場入り口付近の北側の傾斜地に神輿蔵があり、その横に、竜山１号墳の跡と、石棺の身と蓋が横たわっています。

石棺は、竜山石製の家形石棺で、全長約 1.2m、幅が約 0.6m と、小ぶりのもので、古墳時代末期(7 世紀後半)のものと推定されています。大正 5 年時点には、既に古墳が破壊され、石棺も移動されていました。

古墳の被葬者については、石の宝殿の製作者等との関連が注目されるところですが、副葬品も発見されておらず、現在のところは不明です。

また、石の宝殿の周辺（竜山、伊保山等）には、他にも、竜山７号墳までの古墳があります（但し、竜山４号墳は採石により消滅）が、この１号墳の石棺以外は、見ることができません。

## （３）生石神社

### ① 生石神社の創建

生石神社の本社（拝殿）には、向かって左側に大穴牟遅命、右側に少毘古那命の二神を祀っています。参拝する人々は、その間をくぐり抜けて、ご神体である石の宝殿にお参りするようになっており、この形式を「割拝殿」と呼んでいます。

『生石神社略記』には、第十代崇神天皇の御代に創建されたと書かれています。

『石の宝殿・竜山石採石遺跡（高砂市教育委員会）』では、『延喜式』神名帳（927 年）に記載がなく、『播磨国内神名帳』（1181 年）に記載があることから、10～12 世紀に創建されたものと推定しています。

### ② かつては播州松めぐりの名所

播州松めぐりの名所として、高砂相生の松、曽根の松などを、17 世紀後半から多くの人が訪れています。石の宝殿は、そのコースの最も高い人気ポイントで、参勤交代途中の西国大名や、伊勢参り、金比羅詣でを兼ねた武士、学者、文化人、商人、農民等、多彩な人々が訪れたと記録されています。海外からも、文政９（1826）年に、オランダ商館の医師であったシーボルトが訪れ、帰国後に発表した『日本』に、精巧な石の宝殿のスケッチを残しています。

延宝８（1680）年には、西国街道沿いの神爪村に、生石神社の一の鳥居が建立されて、今も残っています。

### ③ 家紋石

生石神社の境内には、石灯籠、鳥居、道標その他の、いろんな石造物（多くは竜山石製）がありますが、変わったものとして、二つの家紋石があります。もとは、竜山の岩盤に隣合わせで刻まれていたものが採石によって落下し、その衝撃で割れたものです。現在は、生石神社東参道の階段登り口の鳥居の横に置かれています。家紋石の由来や製作目的は不明ですが、江戸時代後期以降の彫刻と推定されています。

### ④ 生石神社の算額

算額とは、和算家が、数学の問題や答えを額に書いて神社仏閣に奉納したもので、江戸時代以降の風習です。

生石神社には、拝殿の上に、明治９（1876）年に、和算家の佐藤善一郎とその門人５人が、五つの問題とその答えを書いて奉納した算額があり、絵馬殿には、その複製が掲げられています。皆さん、この算額の答えがわかりますか？う～ん、問題を読むのさえ難しい……！

ぼっくりんのこぼれ話

**生石神社の鐘の話**　その昔、生石神社には鐘があったんだよ。今は、岐阜県大垣市の安楽寺に残ってて、応永26（1419）年付けで、「播州印南郡平津庄生石社推鐘」との銘が刻まれているよ。秀吉による播磨攻めの時、生石神社を神吉城攻めの陣所に貸せとの黒田官兵衛からの申し出を断ったために、神社は焼き払われて、鐘は持ち去られたそうだよ。後の関ヶ原の戦いで、石田三成軍の陣鐘として使われ、石田軍敗戦のあと、安楽寺に寄贈されたんだって。

## （４）宝殿山の山頂（山上公園）

生石神社の拝殿に向かって左側に回り込むと、岩肌に階段が切り込んであり、これを５分も登れば、宝殿山（65m）の山頂（山上公園）に着きます。途中には、石の宝殿を上から見られるポイントもあります。

山頂には、「大正天皇行幸之跡」の石碑が建っています。立木がほとんどないので、360 度の眺望が楽しめます。

近くには、法華山谷川の緩やかな流れや、竜山石採石場の切り立った岩場、あるいは、高砂と加古川の市街地が一望に臨めます。海側を見ると、高砂の臨海工業地帯を経て、播磨灘に浮かぶ島々や、明石海峡大橋が望めます。

北方には、霊峰の高御位山（304m）が、また、運良く晴れて空気の澄んだ日には、北西の山あいに、小さく、姫路城が見えることがあります。

## （５）加茂神社とその周辺

### ① 加茂神社

賀茂建角身命とその娘である玉依姫命を祀る神社で、京都の下賀茂神社（加茂御祖神社）から勧請（神仏の分霊を別の所に移して祀ること）を受けてできた神社と思われます。

加茂神社の狛犬は、江戸時代に、郷土出身力士の三代目陣幕島之助（1783～1829）の弟子たちが寄贈したものです。生石神社の近くには、妻壁に「陣幕」の文字を大きく浮き彫りにした彼の家がありましたが、最近、老朽化のために取り壊されました。

来日したシーボルトは、この陣幕島之助との交流があったようで、石の宝殿とともに、相撲を取る力士のスケッチも残しています。

## ② 法道仙人空鉢塚

加茂神社の境内に、法道仙人空鉢塚があります。法道仙人とは、６～７世紀頃に天竺（インド）から渡来したといわれる謎の多い仙人で、法華山一乗寺（加西市）や播州清水寺（加東市）等、播磨一帯に多くの山岳寺院を開山した人物とされています。

陰陽道の術をわきまえ、「飛鉢の法」といって、持っていた鉄鉢を自由自在に飛ばして、米や食料などのお布施を受けていたとされ、「空鉢仙人」とも呼ばれていました。

仙人は、竜山の中腹あたりから海を見下ろしながら、沖を行く船に向かって鉄鉢を飛ばしては、お布施を請うていたそうです。

**「米田」の地名の話**　ある時、船頭が年貢の米俵をのせて海上を通りかかったところへ、法道仙人が鉢を飛ばして布施を請うたが、船頭はこれを断ったと。すると、鉢が飛び去るのと一緒に船中の米俵も一緒に飛んで行ったんだ。船頭があわてて仙人のいるところへ行って謝ると、米俵は船に戻って行ったと。ところが、一俵だけ、川のほとりに落ちたので、そこを米堕村（堕は”落ちる”の意味）と呼ぶようになり、米田村になったんだって。今の米田町だね。

ぼっくりんのこぼれ話

## 芭蕉の句碑

法道仙人空鉢塚と並んで、芭蕉の句碑があります。俳聖、松尾芭蕉が高砂に来たことはありませんが、江戸時代に、近在の俳句愛好者たちが、芭蕉を偲んで建立したものと伝えられています。

「花咲きて七日鶴みるふもとかな」と刻まれています。「桜の花が咲いて散るまでは七日だという。また鶴も降りた場所に七日間留まるという。この清風（芭蕉の門人・鈴木清風）の屋敷に来てみると花と鶴とが見られてなんと素晴らしいことか」という意味の句です。

ぼっくりんの豆知識

松尾芭蕉は、元禄元年（1688）に須磨と明石に来たけど、明石より西には来たことがないよ。この時には、こんな句を残しているんだ。

蛸壺やはかなき夢を夏の月

蝸牛角ふりわけよ須磨明石

## （6）観涛処

観涛処は、加茂山（79m）南麓の岩盤に垂直の壁面を切り出して、「觀　濤　處」の３文字を彫り込んだものです。当研究会員の実測によれば、そのおよその大きさは、切り出した垂直の壁面が幅 11m×高さ 3.5m、一つの文字が縦横ともに 1.3～1.7m の範囲でした。

江戸時代に、姫路藩の儒学者永根伍石が、その子文峰の書を、親交のあった姫路藩家老河合寸翁に依頼し刻ませたものです。その文字は、岩盤に切り出した壁面に、文字の輪郭を忠実に写し取った上、「留め、跳ね」まで精緻に仕上げており、竜山周辺の石工の採石、加工技術の高さを物語っています。

この観涛処は、天保７（1836）年に姫路藩の命で作られており、年代が明確な採石遺構です。南に海や島々を見渡すことができる景勝地で垂直面の岩盤を「矢」を用いて切り出しています。各所に、製作時の採掘・加工の痕跡が残されていることから、江戸時代後期の採石や、石材加工の技術を明確にすることができる貴重な遺構です。

生石神社の南側鳥居の近くには、観涛処への道標が現存しており、これには石工雲根室忠右衛門の名前が残り、製作者も特定できる珍しい遺構です。

# 言い伝えと創作童話

## 山の神とオコゼ

竜山山地には、いくつかの「山の神」があります。山の神は、山仕事の安全と家族の無事を祈り、地域の繁栄を願って祀られています。

この山の神には、昭和の中ごろまで、オコゼという魚の干物が供えられていました。オコゼは、浅い砂泥底に住み、その頃の瀬戸内海で、よく網にかかって獲れていたといいます。オコゼは、漢字では「鬼虎魚」と書き、顔かたちは笑えるくらい奇怪で醜く、背びれの棘には毒を持っています。

何でそんなものが山の神に供えられたのかを、お話ししましょう。

じつは、「山の神」は女性で、とても器量が悪くて、嫉妬深かったのです。その山の神は、オコゼのような醜い魚を好み、機嫌の悪い時でも、オコゼを差し出すと、たちまちに静まったということです。

そんな言い伝えから、悪天候で山が荒れ、採石の仕事が危険なときには、山を静め、無事に山仕事ができるように、山の神にオコゼを供えるようになったのだと、古老が語っています。

また、転じて、家にいるお嫁さんを「山の神」にたとえて、お嫁さんの機嫌が悪いとき、密かに、オコゼの干物を下げて、この山に登る男が、たくさんいたということです。

山の神

オコゼ

# 大きな石のおにぎり

背の低い宝殿山と、背の高い高御位山は、少し離れていますが、昔から大の仲良しでした。

あるとき、宝殿山では「石の宝殿」を造るため、大勢の人が集まって、賑やかに山を削っていました。高御位山は、賑やかな宝殿山を見下ろして、「自分の方が大きくて格好が良いのに、宝殿山ばかり賑やかでうらやましい」と思いました。

それを気の毒に思った宝殿山の人々は、高御位山に向かって、掘りかけた小石をたくさん放り投げて、「高御位山さん、石の宝殿ができるまで、この小石で遊んでいてください」と言いました。高御位山は喜んで、しばらくその石でお手玉をしたり、小山を作ったりして遊んでいました。

今も高御位山の南の中腹に、「たいじゃり」と言って、宝殿山の石が積もったところがあります。

高御位山は、遊び疲れておなかがすいてきました。そこで、宝殿山から送られてきた新しい小石をすりつぶして、おやつにして食べました。高御位山は、ますます高く、大きくなりました。

高御位山が石ころのお礼を言おうと宝殿山の方を見ると、宝殿山は大勢の人に削り取られて、だんだん痩せ細っています。高御位山は、「宝殿山さん、痩せてかわいそう。おにぎりをあげよう」と、宝殿山から送られた石をつぶしておにぎりにしました。

高御位山が宝殿山に向かって投げた石のおにぎりは、重いので、手元が狂って、宝殿山の上を越えて、隣の加茂山の方へ飛んで行きました。おにぎりは、加茂山の尾根をころころ転がって行く途中で、ピタッと止まりました。

おにぎり岩

宝殿山は、そのおにぎりを食べようと思いましたが、いくら探しても見つかりませんでした。それで、加茂山の斜面には、今でも、おにぎりのような大きな岩が残っています。今では「おにぎり岩」と呼ばれているこの岩のそばには、江戸時代になってから、「観涛処」と呼ばれる名所ができました。

「観涛処」というのは、永根文峰という 19 歳の若者が書いた文字を大きな岩に彫りつけた「三大字」で、打ち寄せる荒波が見えるところという意味です。その隣にある、丸い大きな「おにぎり岩」が、これ以上「落ちない」ようにということと、「優秀な学者・文峰」にあやかって、全国の受験生のパワースポットとして、新たな人気を集めています。

（提供：唐津哲男…高砂歴史ガイドクラブ会長）

# あとがき

日本三奇の一つの「石の宝殿」＝浮石の謎について『播磨国風土記』を始め先達方の著書、推論を踏まえ、お子様方にも理解頂けるように、疑問を 10 項に分けて調査、確認を進め纏めてみました。結果と致しまして弊研究会の発足後の日も浅く調査もその緒に就いたばかりで現状の把握のみに留まりました。

この大きな石が何故？この地で？このような姿のままで現存しているのか？誰が製作を注文したのか？この石はこれで完成なのか？製作途上なのか？ここに設置するつもりであったのか？他の地に運ぶつもりであったのか？等々・・・の多くの疑問にこの石は簡単には答えてくれそうにありません。現在の我々、そしてこれからの人達にも永遠の謎かもしれません。

私達研究会も先達方からのこの大きな遺産「石の宝殿」を次世代にしっかりと受け継いでいくように研鑽を重ねてまいる所存です。この小冊子が、古代の人達の“浮石”に託した熱い思いの一端を皆様に感じて頂く一助になりましたら望外の喜びです。

# 参　考　文　献


- 高砂市教育委員会．石の宝殿調査報告書：高砂市文化財調査報告書 14．2010.
- 高砂市教育委員会．竜山古墳群調査報告書：高砂市文化財調査報告書 15．2011.
- 高砂市教育委員会．石の宝殿・竜山石採石遺跡：竜山採石遺跡詳細分布調査報告書 II．高砂市文化財調査報告書 17．2014.
- 高砂市教育委員会．史跡石の宝殿及び竜山石採石遺跡保存活用計画．2017.
- 高砂市教育委員会．高砂市文化財総合的把握モデル事業　文化財調査報告書．2011.
- 高砂市史編さん専門委員会．高砂市史 第１巻（通史編 地理・考古・古代・中世）．2011.
- 高砂市史編さん専門委員会．高砂市史 第２巻（通史編　近世）．2010.
- 高砂市史編さん専門委員会．高砂市史 第４巻(史料編 地理・考古・古代・中世)．2007.
- 高砂市史編さん専門委員会．高砂市史 第５巻(史料編　近世)．2005.
- 生石神社．播磨國石乃寶殿　生石神社略記
- 間壁忠彦・間壁葭子．日本史の謎・石宝殿．六興出版．1978.
- 石野博信．石野館長の考古学トーク ひょうごの遺跡をめぐる．神戸新聞総合出版センター．2012.
- 木村茂光・監修．由井薗健・指導．大むかしのくらし（旧石器・縄文・弥生・古墳時代）．歴史の流れがわかる 時代別 新・日本の歴史①．学研教育出版．2010.
- 古川清行．大昔の人々の暮らしと知恵．人物・遺産でさぐる日本の歴史①．小峰書店．1998.
- 古川清行．大和の国の誕生．人物・遺産でさぐる日本の歴史②．小峰書店．1998.
- 山浦真一．原始の人びととくらし．衣食住に見る日本の歴史①縄文時代．あすなろ書房．1995.
- 山浦真一．稲づくりと人びとのくらし．衣食住に見る日本の歴史②弥生・古墳時代．あすなろ書房．1995.
- 山浦真一．原始の人びととくらし．衣食住に見る日本の歴史③飛鳥・奈良時代．あすなろ書房．1995.
- 平野庸脩・編．佐々木喬・発行．播磨鑑（全）．歴史図書社．1975.
- 松本清張．火の路（上/下）．長編ミステリー傑作選．文藝春秋．2009.
- 橋本猛志．「播磨国風土記」を繙く：我がまち高砂に関連する伝承．兵庫県いなみ野学園大学院第 11 期生修了レポート集．2018.
- 立岩丈信．生石神社の算額：和算家佐藤善一郎と弟子小山淳次．兵庫県いなみ野学園大学院第 11 期生修了レポート集．2018.
- 高砂歴史ガイドクラブ．高砂市内の文化財を訪ねて：町中散策のガイドブック．2012.
  http://www.city.takasago.lg.jp/index.cfm/14,28406,c,html/28406/20121116-142803.pdf
  （参照 2018-5-3）
- 高砂市高齢者大学 松陽学園．石の宝殿・竜山石切場周辺景観“たんぼうマップ”．2017.
  http://www.city.takasago.lg.jp/index.cfm/14,883,c,html/883/20170906-110450.pdf
  （参照 2018-5-3）
- 高砂市公式ホームページ．市内名所：伊保地区/芭蕉の句碑.
  http://www.city.takasago.hyogo.jp/index.cfm/18,0,173,883,html　（参照 2018-5-3）
- 一般社団法人 高砂市観光交流ビューロー公式ウェブサイト．不思議な「日本三奇」の世界.
  http://www.takasago-tavb.com/nihonsanki/nihonsanki/　（参照 2018-6-25）
- 株式会社 松下石材店公式ホームページ．竜山石について.
  https://www.tatsuyamaishi.com/tatsuyama-ishi/　（参照 2018-5-3）

# 協　賛　者　一　覧　表

以下に、平成３０年１０月３１日までに協賛いただいた企業・医院・商店のお名前を掲載させていただきます。有難うございました。

今後とも、どうぞよろしくご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

（敬称略、順不同）

| | |
|---|---|
| 株式会社　籠谷 | 株式会社　不動産センター・タイヨー |
| 兵庫南農業協同組合 | 株式会社　ト　ク　ラ |
| 播州産業株式会社 | モリス株式会社 |
| ヤング開発株式会社 | 土井建設株式会社 |
| 但陽信用金庫 | 手打ちうどん　松　　屋 |
| 株式会社　ハウジングメイト | 中谷建材株式会社 |
| 中野プランツ株式会社 | 現代竜山石器　石（イシ）　こ（コ）　ろ（ロ）　Ri（リ） |
| 松陽建設株式会社 | 株式会社　松下石材店 |
| 前川建設株式会社 | 医療法人社団<br>つむら循環器内科クリニック |

魅力再発見！

石の宝殿と竜山周辺史跡

～浮石の謎～

---

平成 31（2019）年 1 月　第 1 刷発行

編集・発行　　石の宝殿研究会　編集委員会

https://石の宝殿研究会.com/

〒676-0807

兵庫県高砂市米田町島 218-4

☎　090-1598-1063

印刷・製本　　ハリマニックス株式会社

この冊子の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

平成30年度 高砂市民提案型地域協働推進事業
「夢のシロ」補助金対象